

令和2年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 伊万里市 (都道府県: 佐賀県)

1. 当該地域の情報 (令和3年3月現在)

地域の課題	伊万里市においては、社会環境等の変化を踏まえ、将来向かうべきまちづくりの指針となる「第6次伊万里市総合計画」を策定したところであり、人口減少社会への対応を重点施策として取組の柱に据え、事業の展開を図っています。その中では、外国人の受け入れと多文化共生社会の構築がきわめて重要な政策です。今後、外国人への日本語教育を如何に充実していくかが、地域の大きな課題であると思われます。
在住外国人数 外国人比率	655人 1.2%(令和2年1月1日現在)
在留外国人の 状況	【主な国籍と人数】インドネシア370人、ベトナム87人、中国70人、韓国53人、フィリピン25人、ミャンマー15人、パキスタン7人、米国7人、ネパール3人、タイ3人 【在留資格】技能実習447人、永住者52人、特別永住者44人、特定活動41人、技術・人文知識・国際業務18人、日本人の配偶者等17人、宗教8人、定住者5人、技能3人、企業内転勤3人 【滞在年数・在留期間などの状況】 技能実習生が全体の68%を占めており、原則、在留期間は3年です。今年度がコロナ禍の影響で、入国ができないため、技能実習生の数が減少すると思われますが、アフター・コロナになれば再び増えていく見込みです。
在住外国人の 日本語教育の現状	技能実習生:各監理団体によると、来日前、自国で日本語教育を受け、来日後は主に生活適応等に関する研修を行っているということです。その他の在留資格者については、以下のアンケートから、その現状を窺えると思われます。 参考:2020年9月1日から10月9日まで、伊万里市在住外国人を対象にアンケートを実施しました。配布150枚、回収103枚、有効サンプル数100枚です。このアンケートのQ5「あなたは現在、日本語を勉強していますか」への回答は、「一人で勉強している」(38人)、「日本人の知り合いに教えてもらっている」(27人)、「職場・学校の日本語教室で勉強している」・「勉強していない」(15人)、「日本語教室で勉強している」(6人)、「家族から教えてもらっている」(2人)となっています。

2. 事業の内容

本プログラム取組年数	1年			
事業の目的	市在住外国人が伊万里市で生活・就職するには、母国での視点で生活することだけではなく、日本の文化や習慣などを知り、地域の中で円滑に日本社会に適応するための方法を身に付ける必要があります。実生活の事例を通して学び、また、多様な年代の日本人とふれあうことによって、学習と交流の楽しさと魅力を感じてもらえる日本語教室を作りたいと考えております。彼らが伊万里市の一員として、自立した生活を送ることができるようになることを目的としています。			
事業の概要	現在、市内在住の外国人は650人を超えており、総人口の1.2%を占めています。これまで、生涯学習センターで日本語教室が開催されてきましたが、多くの外国人が居住する黒川町から約10キロも離れていることから、移動手段が自転車しかない技能実習生にとっては、通うのが困難な距離となっており、参加者が年々減っています。より多くの在住外国人が伊万里市民として、円滑な生活を送ることができるよう、「地域日本語教育スタートアッププログラム」を活用した「日本語教室Awesome IMARI」を、黒川町を中心に開催するよう、計画しました。 3年間を通じて、伊万里市在住の「生活者としての外国人」に対して、日本語教育プログラムを実施するものです。初年度は主に情報収集とニーズ調査を行ったうえで、教室を3回開設しました。2年目からは、原則として、1ヵ月に1回の日本語教室を実施します。(1回1時間半程度)。教室の内容は、生活に必要な項目を優先し、次に、地域を知ることということで、伊万里の焼き物、梨、お祭りをテーマにします。さらに、地域住民との交流活動を実施することによって、多文化共生社会の実現に貢献します。			
事業の対象期間	令和2年4月～令和3年3月			
前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)				
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	章 潔	伊万里市まちづくり課	多文化共生マネージャー	連絡調整、事業企画立案、広報、教室活動企画・準備等
	中村 章	日本語教室いまり	サポーター	連絡調整、事業企画立案、広報、教室活動企画・準備等
	田中 亮子	日本語教室いまり	代表	連絡調整、事業企画立案、広報、教室活動企画・準備等
	中島 恵理子	日本語教室いまり	サポーター	連絡調整、事業企画立案、広報、教室活動企画・準備等
	武藤 典子	カフェこくさいじん	コーディネーター	連絡調整、事業企画立案、広報、教室活動企画・準備等
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	西原 鈴子	日本語教育研究所	理事長	新規(1 年目)
	仙田 武司	しまね国際センター	多文化共生推進課長	新規(1 年目)
	高柳 香代	多文化共生ネット・九州	主宰	新規(1 年目)

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1)地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

検討体制	アドバイザー 伊万里市まちづくり課 伊万里市国際交流協会 コーディネーター 学校教育課 黒川町コミュニティセンター まちづくり課を中心として、運営委員会を組織し、外部有識者であるアドバイザー助言のもと、コーディネーターとともに検討を行いました。その話し合いには、図で示したすべての団体・個人に参加してもらいました。また、ニーズ調査をするために、国際交流協会、アイム・ジャパンに協力してもらいました。そして、教室運営のために、学校教育課・生涯学習課・黒川コミュニティセンターに協力してもらいました。		
	所属(担当課)	担当者名	職名
	まちづくり課	力武 敏朗	課長
	学校教育課	内山 直樹	係長
	生涯学習課	松尾 潤	係
	黒川町コミュニティセンター	宝蔵寺 亮	係
	伊万里市国際交流協会	合戸 矢一	主査
	公益財団法人 国際人材育成機構 (アイム・ジャパン)	木村 護	課長

(2)日本語教室の実施に向けた事業運営体制図

伊万里市まちづくり課

伊万里市国際交流協会

コーディネーター

黒川町コミュニティセンター

伊万里警察署・消防署

市防災課・保健課・環境課

日本語教室いまり

まちづくり課を中心として、教室の準備に向けて、活動内容として、生活者としての外国人に必要な項目を「標準的なカリキュラム案」を元に検討しました。今年度の12・1・2月に3回のみの開催になったため、次年度の準備を兼ねて、関連する警察署、防災課等に依頼をし、内容を検討しました。また、指導者の発掘に当たっては「日本語教室いまり」等と協力し、「指導者養成講座」を3回開催し、日本語教育者の育成に取り組みました。教室開催予定の黒川町の町内会にも協力を求めました。

伊万里市内における新型コロナウイルスの感染者は、現在まで43例（令和3年3月9日確認）となっています。第1回目の日本語教室は、3密対策を徹底したほか、手指消毒液設置や簡易マスク配布などを実施しました。第2回と第3回は、オンラインのみの開催となりました。今後、防疫対策をしっかりと講じながら、対面式の教室を実施する一方、オンライン講義も積極的に活用していきます。

組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
伊万里市	まちづくり課	課長	力武 敏朗
伊万里市	防災危機管理	課長	土井 清隆
伊万里市	健康づくり課	係長	城島ゆかり
伊万里市	環境課	主査	黒髪 慎二
伊万里市	黒川町コミュニティセンター	係	宝蔵寺 亮
日本語教室いまり	日本語教室	代表	田中 亮子
伊万里市国際交流協会	事務局	主査	合戸 矢一
佐賀県伊万里警察署	警備課	係長	岡 真司

4. 具体的な取組内容

(1)年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和2年 4月	コーディネーターの確保	連絡調整、事前学習	
令和2年 5月	コーディネーターの確保	連絡調整、事前学習	
令和2年 6月	6月11日：本プログラムオリエンテーション(事務局) 6月19日：キックオフ会議事前打ち合わせ(コーディネーター会議) (1)キックオフ会議資料検討、(2)事業計画書検討 6月24日：キックオフ会議(アドバイザー・コーディネーター、事務局) 内容：事業計画書検討 6月29日：キックオフ会議後打合せ(コーディネーター会議) 内容：(1)キックオフ会議のまとめ、(2)事業計画書再検討	連絡調整、事業企画立案、広報	遠隔1回(西原・仙田・高柳) 6月24日：キックオフ会議 内容：事業計画書検討
令和2年 7月	7月2日：第2回キックオフ会議(アドバイザー、事務局)、内容：事業計画書再検討 7月13日：コーディネーター会議、内容：(1)年間計画の打合せ、 (2)アンケートの設問項目の作成 7月16日：コーディネーター会議 内容：(1)先進地視察(嬉野市)の打合せ、(2)アンケートの設問項目の作成(日本人向け) 7月19日：先進地視察(嬉野市・日本語教室カフェこくさいじん、コーディネーター3名) 7月20日：佐賀国際フェスター実施説明会(神崎市、事務局1名参加)	連絡調整、事業企画立案、広報、 教室活動企画・準備、先進地視察	遠隔1回(西原・仙田・高柳) 7月2日：第2回キックオフ会議 内容：事業計画書再検討
令和2年 8月	8月1日：文化庁委託CINGAオンライン活動報告会(コーディネーター2名参加) 8月5日：コーディネーター会議、内容：(1)アンケートの設問項目の作成、(2)伊万里市議員にスタートアップ事業説明 8月6日：名村造船所訪問(ニーズ調査依頼、事務局) 8月17日：事務局会議(田中・中島参加)、内容：(1)Zoom会議の使用手法、(2)先進地視察(鳥栖市)の打合せ 8月19日：コーディネーター・アドバイザー会議、内容：外国人・日本人向けアンケート調査票内容の審議 8月21日：先進地視察(鳥栖市・鳥栖市役所、コーディネーター3名) 8月26日：コーディネーター会議、内容：(1)先進地視察(鳥栖市)の情報共有、(2)視察について意見交換	連絡調整、事業企画立案、広報、 教室活動企画・準備、先進地視察	遠隔1回(西原・仙田・高柳) 8月19日 内容：外国人・日本人向けアンケート調査票内容の審議
令和2年 9月	9月2日：アドバイザー・コーディネーター会議、内容：シンポジウムの事前打合せ 9月3日：多文化共生関連講座①伊万里市オンラインシンポジウム『多文化共生社会と地域日本語教室』、参加者：92名(団体) 9月12日：コーディネーター・アドバイザー会議 内容：(1)シンポジウムの反省会、(2)先進地視察(鳥栖市オンライン教室見学)の事前打合せ 9月16日：ニーズ調査のため、伊万里高校訪問(アンケート依頼、事務局) 9月19日：コーディネーター会議、内容：ニーズ調査用アンケートの配布に関する打合せ 9月13日・27日：先進地視察(鳥栖市・オンライン日本語教室見学) 9月中：日本人・外国人向けアンケート配布・ヒアリング調査(コーディネーター)	連絡調整、事業企画立案、広報、 教室活動企画・準備、先進地視察、ニーズ調査、ヒアリング	遠隔3回(西原・仙田・高柳) 9月2日、内容：シンポジウムの事前打ち合わせ 9月3日、内容：伊万里市オンラインシンポジウム 9月12日、内容：(1)シンポジウムの反省会、(2)先進地視察(鳥栖市オンライン教室見学)の事前打合せ
令和2年 10月	10月4日：人と関わる-地域の住民との交流①「さが国際フェスタ」(神崎市王仁博士顕彰公園)、(1)伊万里日本教室の活動をポスター発表(掲示場所：佐賀県国際交流協会)、(2)外国人学習者(フィリピン・中国)をイベントに連れて行き、交流を行った。 10月9日：①コーディネーター会議、内容：(1)ニーズ調査用アンケートの集計、(2)集計方法の打合せ、②企業訪問：社会医療法人謙仁会、ニーズ調査依頼(事務局) 10月23日：コーディネーター会議、内容：(1)ニーズ調査用アンケート調査結果についての確認、(2)11月2日の報告会についての打合せ 10月～3月：「生活者としての外国人に対する日本語教師【初任】研修」(章) 10月中：日本人・外国人向けアンケート配布・ヒアリング調査、アンケート集計、結果作成(コーディネーター)	連絡調整、事業企画立案、広報、 教室活動企画・準備、ニーズ調査アンケートの作成、ニーズ調査、ニーズ調査結果の集計	
令和2年 11月	11月2日：地域日本語教育スタートアッププログラム実施団体情報交換会(コーディネーター4人) 11月15日：先進地視察(佐賀市・日本語教室「かけはし」見学、コーディネーター3名) 11月16日：①コーディネーター会議、内容：(1)先進地視察(佐賀市・「かけはし」)の情報共有及び意見交換、(2)第一回日本語教室の開催日、内容、対象、方式について意見交換 ②企業訪問、黒木建設株式会社、日本教室参加依頼(事務局) 11月26日：アドバイザー・コーディネーター会議、内容：(1)ニーズ調査結果についてアドバイザーと意見交換、(2)第一回日本語教室の開催日、内容、対象、方式、(3)アドバイザーの伊万里派遣	連絡調整、事業企画立案、広報、 教室活動企画・準備、先進地視察	遠隔1回(西原・仙田・高柳) 11月26日、内容：(1)ニーズ調査結果についてアドバイザーと意見交換、(2)第一回日本語教室の開催日、内容、対象、方式、(3)アドバイザーの伊万里派遣
令和2年 12月	12月2日：日本語教室空白地域解消推進協議会(事務局) 12月4日：コーディネーター会議、内容：第一回日本語教室の事前打ち合わせ 12月7日：市長定例会見・記者発表、伊万里ケーブルテレビ取材・収録(日本語教室開催、事務局) 12月8日：「生活者としての外国人」のための日本語学習サイト「つながるひろがる にほんごでのくらし」活用説明会参加(章) 12月13日：第1回日本語教室、内容：「挨拶と自己紹介」 12月20日：人とかかわる-地域の住民との交流③「小学生との交流会」、内容：日本の小学生に外国の遊びを教える、講師：外国人8名(ミャンマー3名、中国2名、スリランカ2名、フィリピン1名)、市内の小学生など48名参加	連絡調整、事業企画立案、広報、 教室活動企画・準備・運営	遠隔1回(西原・仙田・高柳) 12月15日、内容：第1回日本語教室についてのまとめおよび反省点・改善点の打合せ
令和3年 1月	1月4日：コーディネーター会議、内容：第2回日本語教室の事前打ち合わせ 1月17日：第2回日本語教室、内容：「日本の正月」	連絡調整、事業企画立案、広報、 教室活動企画・準備・運営	遠隔1回(西原・仙田・高柳) 1月21日、内容：第2回日本語教室についてのまとめおよび反省点・改善点の打合せ
令和3年 2月	2月16日：コーディネーター情報交換会(コーディネーター2名参加) 2月20日：第一回日本語指導者養成講座、内容：「インドネシアの方と触れ合う」 2月21日：第3回日本語教室、内容：「日本の歌と楽器」、第二回日本語指導者養成講座、内容：「ベトナムの方と触れ合う」 2月23日：第三回日本語指導者養成講座、内容：「中国の方と触れ合う」、コーディネーター会議、内容：第3回日本語教室の反省及び改善に関する打合せ 2月1日～19日：多文化共生関連講座、内容：「やさしい日本語」、対象：伊万里市役所全職員、講師：伊万里市多文化共生マネージャー 章潔	連絡調整、事業企画立案、広報、 教室活動企画・準備・運営	遠隔1回(西原・仙田・高柳) 2月23日、内容：第3回日本語教室についてのまとめおよび反省点・改善点の打合せ
令和3年 3月	報告書作成(事務局)	事業評価およびまとめ	

(2)立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称		日本語教室「Awesome IMARI」							
外国人参加者について 参加対象者		[国籍]中国2名、ベトナム1名、インドネシア25名、フィリピン2名、タイ1名。 [属性]技能実習生、日本人の配偶者等が主な対象。			参加者数 (内 外国人数)		受講者31名 支援者25名 (日本語指導者5名、サポーター20名)		
開催時間数		総時間 4.5 時間			内訳 1.5 時間 × 3 回				
目標		①日本語教室「Awesome IMARI」を知ってもらうことです。今後の活動に繋がります。 ②楽しいテーマを設定し(①自己紹介、②お正月、③日本の歌と楽器)、教室参加者の意欲を高めます。 ③多様な年代の日本人とふれあうことによって、学習と交流の楽しさと魅力を感じてもらいます。 ④自己紹介など、コミュニケーションを取るための日本語を身に付けます。							
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要		支援者数	
1	2020年12月13日 (日) 14:00～15:30	1.5	黒川コミュニティセンター (Zoomミーティング同時開催)	24	挨拶と自己紹介	・主催者あいさつ ・教室の紹介と本日の流れ ・自己紹介のための日本語(担当:章) ・名刺交換について(担当:章) ・4グループに分かれて、「自己紹介」の練習(担当:中村・中島・武藤・田中) ・次回の案内		日本語指導者5名 サポーター20名	
2	2021年1月17日 (日) 14:00～15:30	1.5	オンライン (Zoomミーティング)	15	日本の正月	・本日の流れ ・もちつきについて(担当:中村) ・カルタについて(担当:中島) ・門松について(担当:田中) ・4グループに分かれて、会話の練習(テーマ:正月) ・次回の案内		日本語指導者4名 サポーター4名	
3	2021年2月21日 (日) 14:00～15:30	1.5	オンライン (Zoomミーティング)	1	日本の歌と楽器	・本日の流れ ・日本の歌を聞く(歌詞の穴埋め、リスニング)(担当:章) ・リスニングの答え合わせ(担当:中村・中島・田中) ・日本の楽器の演奏を聞く(太鼓・三味線・琴) ・4グループに分かれて、会話の練習(テーマ:楽器)		日本語指導者4名 サポーター7名	

【主な活動】



先進地視察
嬉野市日本語教室カフェこくさいじん
2020年7月19日(日)



第一回日本語教室「Awesome IMARI」
2020年12月13日(日)



人とかかわる-地域の住民との交流③
「小学生との交流会」
2020年12月20日(日)

教室の立ち上げに係る問題とその対応策	問題①:新型コロナウイルス感染症の拡大と日本語教室の開催:1. オンライン教室実施の体制づくり。2. 対面形式の教室の感染症防止対策。 対策①:1. Zoomの使用方法的研修を開催します。2. 検温、マスクの着用、消毒液の使用など、対面形式の教室の感染症防止対策を徹底します。 問題②:日本語教室参加者への広報・連絡。 対策②:Facebook、LINEなどのSNSを活用し、参加者のネットワークを構築します。
--------------------	--

(3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
さが国際フェスタ	令和2年10月4日(木) 11:00～16:00	日本語教室立ち上げのための取組を地域住民に周知するため、近隣市である神崎市(王仁博士顕彰公園)で開催された多文化共生フェスタにブース出展しました。なお、来場者は2000名程度おり、当市の取組を説明し、理解促進に一定の効果があつたと考えられます。そして、このフェスタ月間中(10月1日「木」～10月10日「土」)、佐賀商エビル1階(通路)で、「生活者としての外国人のための日本語教室」のパネルを展示しました。来場者たちに、日本語教室「Awesome IMARI」の取り組みをPRしました。
日本語指導者養成講座	令和3年2月20・21・23日 (全3回)	日本語教室での指導者・人材が不足しているという課題を受けて、継続的な日本語指導体制を構築するために、佐賀県国際交流協会に依頼し、講師派遣をしてもらいました。日本語指導者・人材を育成することを目標としています。 【内容】(全3回すべてオンライン「Zoom」開催、1回60分) 第1回 2月20日(土)13:30～14:30 テーマ「インドネシアの方とふれあう」 講師1名:OLIVIA FEBRIANTI LIEM、参加者数11人 第2回 2月21日(日)10:00～11:00 テーマ「ベトナムの方とふれあう」 講師2名:TRINH THI NGOC LAN、LE QUANG HIEN、参加者数12人 第3回 2月23日(火・祝) テーマ「中国の方とふれあう」 講師2名:王敏詩、陳瑩、参加者数13人
多文化共生関連講座	令和2年9月～令和3年2月(全3回)	地域日本語教室を立ち上げるために、伊万里市民に対する多文化共生の意識啓発が必要です。そのため、市職員、市民を対象とする「多文化共生関連」講座を開催しました。 【内容】(全3回、1回60分程度) 第1回 9月3日(木)14:00～16:00 テーマ 伊万里市オンライン(ZOOM)シンポジウム「多文化共生社会と地域日本語教室」 講師4名:西原鈴子、仙田武史、高柳香代、章潔、参加者数(団体):92 第2回 2月1日(月)～2月9日(火) テーマ 「多文化共生研修・やさしい日本語について」、講師1名:章潔、受講者数:231名 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「多文化共生研修資料」による自己研修方式で実施しました。 第3回 2月10日(水)～2月19日(金) テーマ 「多文化共生研修・やさしい日本語について」、講師1名:章潔、受講者数:230名 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「多文化共生研修資料」による自己研修方式で実施しました。

【主な活動】



シンポジウム
「多文化共生社会と地域日本語教室」
2020年9月3日(木)



さが国際フェスタ
2020年10月4日(日)



第一回日本語教室指導者養成講座(ZOOM)
「インドネシアの方とふれあう」
2021年2月20日(土)

5. 今年度事業全体について

進捗状況	概ね計画通り実施しました。計画と実際の差が以下の1点のみ。 ※人と関わる-地域の住民との交流②「黒川町住民と交流会」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。
事業推進にあたり問題点と対応策	①技能実習生を受け入れている企業との意思疎通：市内受入側の企業に協力要請をしましたが、会社の運営状況や業務の繁忙によって、非協力的担当者もおるため、一部の企業との連携がなかなかうまくいかず、意思疎通ができていません。行政として、今後、如何に受入側の企業とウパートナーシップを構築し、技能実習生をサポートしていくことが課題の一つです。 →今後の対策：技能実習生の派遣などを行っている監理団体と連携し、企業側の理解を得るように努力します。 ②新型コロナウイルス感染症対策：従来通りの対面式の日本語教室活動ができなくなり、教室のサポーターたちも困惑しています。 →今後の対策：検温、消毒液などの対策を講じる一方、オンライン教室の開催も積極的に行います。
成果	①伊万里市在住外国人の状況の把握：ニーズ調査を通して、在住外国人(100人)の「分からないこと、知りたいこと、教えてもらいたいこと」を調べることができました。 ②地域リソースの把握：ニーズ調査を通して、伊万里市民(日本人)の日本語教室開催への考え・意見を聞くことができました。また、企業訪問などを行い、受け入れの企業側と話し合い、意思疎通を図りました。 ③地域リソースの活用及び連携：コーディネーターの活動を通して、伊万里市、伊万里市国際交流協会、市内各コミュニティセンター、伊万里市警察署、外国人受け入れ企業等との連携をし、日本語教室の立ち上げに取り込みました。 ④先進地視察：佐賀県の先進地域(嬉野市、鳥栖市、佐賀市)の効果的な取り組みについて調査・検討し、見学することによって、今後の伊万里の日本語教室の質の向上を目指し、コーディネーター個人の教育能力の強化・促進を図りました。
地域の関係者との連携による効果	日本語教室の立ち上げには、伊万里市国際交流協会、黒川町コミュニティセンター、「日本語教室いまり」などの協力を得られました。また、企業訪問などを行い、技能実習生を受け入れる側と話し合い、意思疎通を図りました。企業担当者の協力で、在住外国人へのニーズ調査がスムーズに実行することができました。日本語教室活動は「まちづくり」の一環なので、地域の関係者との連携なしには、成しえません。
コーディネーターの主な活動	①事業計画の作成、調整、運営(コーディネーター会議・アドバイザー会議)。 ②ニーズ調査(アンケートの作成、配布、回収、集計、結果分析)。 ③日本語教室開設及び運営のための調整(コーディネーター会議)。 ④日本語教室の教材作成。(各自で日本語教室の内容を準備) ⑤日本語教室の広報、宣伝。(在住外国人を訪問し、聞き取り調査を行いました。また広報のために、市報「広報いまり」のコラム執筆や多文化共生の「Facebook」ホームページの作成。) ⑥先進地域の視察(嬉野市、鳥栖市、佐賀市の日本語教室を見学)
アドバイザーの主な助言	①ニーズ調査のやりかた。アンケートの作問の注意事項。 ②他地域の先進的な取り組みの紹介。 ③コロナ禍における日本語教室の運営方法(オンライン教室を推薦)。 ④技能実習生の受け入れ側との調整、連携方法。
今後の課題	①日本語教室サポーター：1. 現在コーディネーター5名ですが、さらに人数を増やしていく必要があります。2. 市民の中から、日本語指導に興味を持ちスキルアップを目指す人材を発掘養成する必要があります。 ②日本語教室参加者：1. 技能実習生以外の在留資格をもつ人の受講を増やすこと。2. 参加者のネットワークの体制づくり。 ③地域との連携：1. 行政全体として多文化共生の共通理解を進めることが必要です。2. 市民たちに幅広く日本語教室の存在を知ってもらう必要があります。3. 外国人受入側としての企業との連携・協力を深める必要があります。 ④新型コロナウイルス感染症対策：1. オンライン教室実施の体制づくり。2. 対面形式の教室の感染症防止対策。
今後の予定	①日本語教室サポーター：1. 市の広報を通してコーディネーター数を増やします。2. 定期的に日本語教室サポーター養成講座を開催します。 ②日本語教室参加者：1. 市の広報を通して、永住者などの受講を増やします。2. Facebook、LINEなどのSNSを活用し、参加者のネットワークを構築します。 ③地域との連携：1. 市職員向けに定期的に多文化共生関連研修を実施します。2. 市報を通して市民へ日本語教室をPRします。3. 企業訪問を通して、行政との連携・協力を深めます。 ④新型コロナウイルス感染症対策：1. Zoomの使用方法的研修を開催します。2. 検温、マスクの着用、消毒液の使用など、対面形式の教室の感染症防止対策を徹底します。

本件担当 ： 伊万里市役所まちづくり課多文化共生係